心理療法の実際III

［講義］　第４学年　前期　選択　2単位

《履修上の留意事項》高齢期に関する心理的支援について、実際のアセスメント法、介入法の基礎を学ぶ講義科目である。大学院に進学して公認心理師を志望する学生を対象とする。本学大学院においてはこの科目を履修していることを前提として講義科目が組まれる予定である。

《担当者名》〇　百々 尚美（ndodo@hoku-iryo-u.ac.jp）　橋岡　禎征(hashioka@asahikawa-med.ac.jp)

【概　要】
本講義では、超高齢社会において公認心理師に不可欠な「高齢者に対する心理学的支援」および「適切なアセスメント能力」の実践的習得を目指す。　4年次までに学習した心理学知識を基盤とし、老年期特有の身体的・心理的・社会的変化（認知機能低下、喪失体験、役割変化等）を理解した上で、医療と福祉の現場で求められる具体的な介入技法と検査スキルを演習形式で学ぶ。
特に本講義では、以下の4つの視点を統合することを主眼とする。
1.　医学的視点：最新の認知症病理、MCI（軽度認知障害）への薬物療法の理解。
2.　機能的視点：神経心理学的検査を用いた認知機能の客観的評価。
3.　心理的視点：老年期うつ病と心理検査の事例検討を通じた、高齢者の内的体験への共感。
4.　生活・家族支援の視点：手続き記憶（残存機能）に着目した認知リハビリテーションの概念、およびケアラー（家族）を「第2の患者」として支えるシステム論的アプローチ。
これらを通じ、要支援者およびその家族を「データ」としてではなく「生活者」として全人的に理解し、多職種と連携して支援する基礎力を養う。

【学修目標】
本講義の履修を通じて、学生は以下の能力を身につけることを目標とする。
1.　老年期の特性と病理の理解（知識）
　◦　正常な加齢、MCI、認知症、老年期うつ病（仮性認知症）の違いを説明できる。
　◦　エピソード記憶と手続き記憶の違いなど、脳科学的根拠に基づいたリハビリテーションの視点を理解する。
2.　アセスメント技能の習得（技能）
　◦　目的に応じた適切な検査バッテリー（スクリーニング、前頭葉機能、記憶等）を選択・実施・採点できる。
　◦　検査の点数だけでなく、行動観察や面接を通じて被検者の心理状態を統合的に把握できる。
3.　心理学的支援の実践（態度・技能）
　◦　エイジズム（高齢者への偏見）を自覚・払拭し、高齢者の尊厳を守る態度を身につける。
　◦　回想法や傾聴などの技法を用い、高齢者とのラポール形成および家族（ケアラー）の負担軽減・虐待予防の視点を持つ。
4.　多職種連携への志向（関心・意欲）
　◦　医師（Cure）と心理職（Care）の役割分担と連携の重要性を理解し、アセスメント結果を他職種に適切にフィードバックできる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーションと高齢者観の再構築	公認心理師が高齢者領域に関わる意義を理解する 演習を通して自身のエイジズム（年齢差別・偏見）への気づきと払拭を図る	百々　尚美
2	MCI（軽度認知障害）のアセスメント①	CDR（臨床認知症尺度）の概念を理解する MoCA-J（Montreal Cognitive Assessment）を実施し、採点方法を習得する	百々　尚美
3	MCI（軽度認知障害）のアセスメント②	CDT（時計描画テスト）による視空間・構成能力評価、およびFAB（前頭葉機能検査）による実行機能・抑制機能評価の手法を習得する	百々　尚美
4	認知症の神経生理学と薬物療法①	認知症の神経病理学的メカニズムおよびMCIの病態と早期発見の重要性を理解する	橋岡　禎征
5	認知症の神経生理学と薬物療法②	抗認知症薬の効果と限界など薬物療法の現在を学び、質疑応答を通じて心理職と医師の連携のあり方について理解を深め	橋岡　禎征
6	進行期の評価と生活機能（IADL）①	HDS-R（長谷川式）およびMMSEの実施法を習得する 難聴・視力低下のある高齢者への検査導入ロールプレイを通じ、感覚障害への配慮を学ぶ	百々　尚美
7	進行期の評価と生活機能（IADL）②	生活機能（IADL）と認知機能の関連（計算力低下と金	百々　尚美

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		銭管理など）を学び、検査結果を生活上のリスクへ翻訳する視点を養う	
8	詳細な機能評価（高次脳機能障害）①	S-PA（標準性対連合学習検査）による言語性記憶・学習能力の評価、およびBenton視覚記銘検査による視覚性注意・記憶の評価法を習得する	百々　尚美
9	詳細な機能評価（高次脳機能障害）②	WCST（ウィスコンシンカード分類課題）を実施し、セット転換・概念形成の評価法を習得する	百々　尚美
10	老年期うつ病と投映法アプローチ①	認知症と「老年期うつ病（仮性認知症）」の鑑別診断について学ぶ GDS-15（老年期うつ尺度）を実施し、カットオフ値と評価の視点を理解する	百々　尚美
11	老年期うつ病と投映法アプローチ②	抑うつによる認知機能低下事例の検討を通じ、検査数値と心理的変容を統合的に理解する	百々　尚美
12	残存機能の活用とBPSDへの心理療法①	記憶の分類と「手続き記憶」の保存について、認知リハビリテーションの視点から学ぶ BPSD（行動・心理症状）に対する非薬物療法のエビデンスを理解する	百々　尚美
13	残存機能の活用とBPSDへの心理療法②	回想法（Reminiscence）を実践し、傾聴体験を通してナラティブ・アプローチの技法を習得する	百々　尚美
14	ケアラー支援と総合ケースカンファレンス①	介護負担の評価（J-ZBI）を実施し、「第2の患者」という視点を理解する 高齢者虐待の心理メカニズムと心理教育による防止策を学ぶ	百々　尚美
15	ケアラー支援と総合ケースカンファレンス②	模擬ケースカンファレンスを行い、本人支援だけでなく、疲弊した家族への具体的介入計画を立案する	百々　尚美

【授業実施形態】
面接授業と遠隔授業の併用
※授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】
導入している

【評価方法】
講義ごとの小テスト（20%）、リアクションペーパー・振り返り（40%）、期末試験（40%）

平常点（60%）、および期末試験（40%）を合計して評価する。
・平常点：Google Classroom/Formsを用い、各回の基礎知識（用語・検査法）の定着を確認する小テスト（20%）と講義後のリアクションペーパー（40%）により評価する。 小テストとリアクションペーパーは出席の確認も兼ねている。
・期末試験：基礎知識（用語・検査法）および事例問題（アセスメントと支援計画の論述）により、実践的応用力を評価する。

【参考書】
『認知症疾患診療ガイドライン2017』（日本神経学会 監修）
その他、講義内で適宜資料（PDF等）をGoogle Classroomにて配布する

【備考】
1.学習教材（授業資料）の配信、学習課題の提示
・授業資料の配付はGoogle Classroomを利用して学習課題を提示する
2.授業に関する学生相互の意見交換やグループ学習の実践
・学生相互の意見交換を目的にGoogle Classroomを活用する
3.任意の時間での授業の受講
・Google Classroomを利用したオンデマンド型授業、オンライン授業を行う場合もある
4.授業時間中にその場で学生の理解度を把握する技術の活用
・Google Formを活用し、授業時間中にその場で学生の理解度を把握する
5.欠席回数について
・各自で責任を持って管理すること(欠席回数についての問い合わせには原則応じない)。
6.課題について
・課題の提出締切を厳守すること（遅延の場合は課題の評価は減じられる）
・課題内容において、剽窃などの不正がなされることは極めて低劣な行為であり、いかなる事情があろうとも忌避されるべきも

のである。そのような不正が発覚した場合、あるいは強く疑われる場合には、以降、その学生からの提出物は評価の対象から除外する。

【学修の準備】
1.予習について
・シラバスの内容を参考に、参考書および講義資料を熟読し、講義内容を予習すること（80分）
2.復習について
・講義内容を見直し、不明な点は関連書籍をもとに確認し、理解を深めておくこと（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】
DP3.心理学の基礎やそれらを応用発展させた心理科学と周辺諸科学に関する知識・技術を修得している。
DP4.公認心理師の活動に関連する知識・技術を修得している。
上記、心理科学部ディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】
百々 尚美（公認心理師）橋岡 禎征（医師）

【実務経験を活かした教育内容】
医師、公認心理師としての医療・福祉・教育での実務経験を活かし、臨床・研究の成果を反映させた講義内容となっている。